

欲に溺れる

人妻

鶴永いくお

若い欲に
蜜をこぼして

1

【合冊版】

欲に溺れる人妻

～若い欲に蜜をこぼして～

第1話





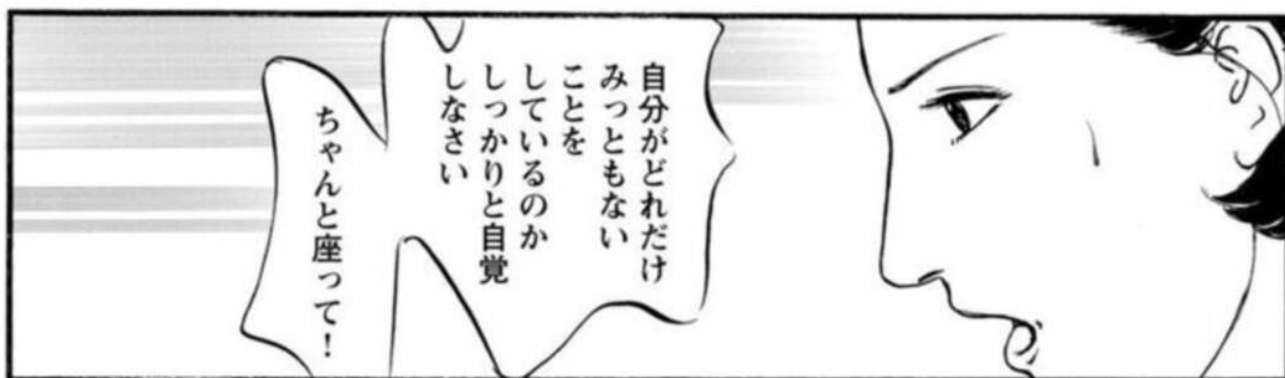
えっ!?



な...何!?

とっ突然...









隣近所で
こんな揉め事を
表沙汰にはしたく
ないでしょ

だからこうして
あなたがひとりの時を
見計らって
意見をしにきたのよ



さあもう
ズボンを
はきなさい



こういう事は
放っておいたら
どんどん深みに
はまって
しまうでしょ

下着なんかでは
満足できなくなつて
次はどんなことを
してかしてしまう
のか……



何をしてるの？



い……いや
なんだかもう……



帰るわ

あとは
お好きになさい
それはあげるから



だってこんな格好で
お婆さんのこと
目の前にしてたら…

さっき途中
だったし…



待ってよ

何もしないから
そこにいて…



何もできないから
せめてパンティーぐらい
ほしいと思って…つい



俺窓からそっと
お婆さんの姿を
見ながらこんな
ことをしてたんだ



きれいだもの

もう俺…気になって
いろんなこと妄想
しまくって…



どっとうか
しているわよ

こんなお婆さんに…





こうして
いるだけで
いいの？

うっ
うん



あっ

はあ



はっ

はっ



はっ



やっぱり…

もの足りないん
じゃないの…？



パンティー
好きなんでしょ



いっいや…
そりゃ
その中身の
ほうが…



ばかね
何よ
中身って...



そういう好色な目で
見られるのは
ばかにされている
みたいで嫌なのよ



知ってるで
しょうけど
私は未亡人だから



あっ



亡くなった主人は
学校の教員
だったのよ

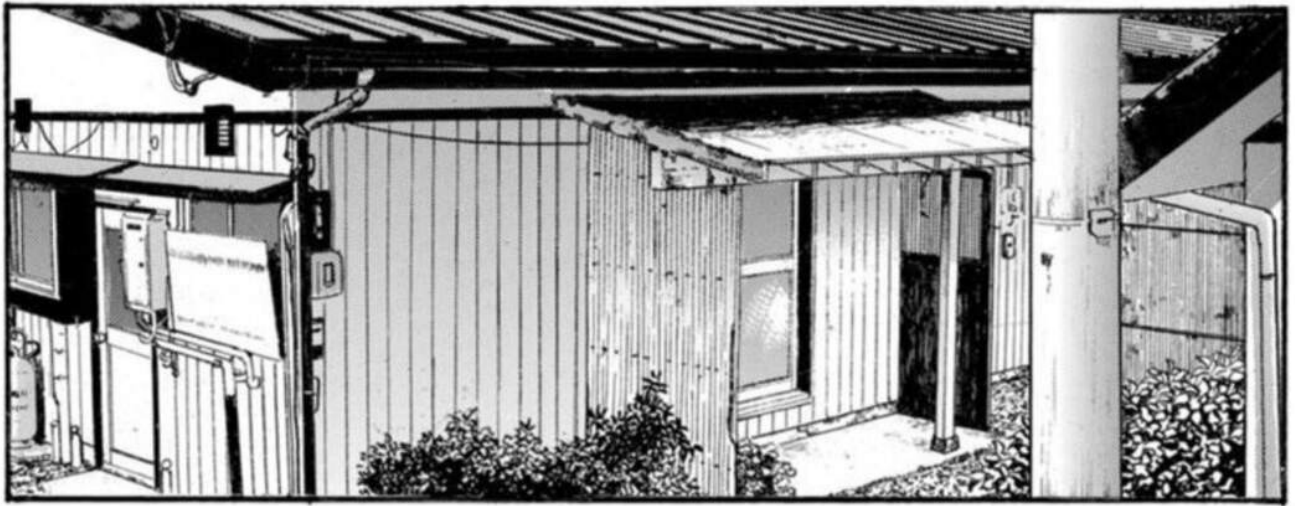
生真面目で
誠実で実直な











ああいや...

だっだめ









したのは
午前中でしょ
午後になつて
また…こんな…

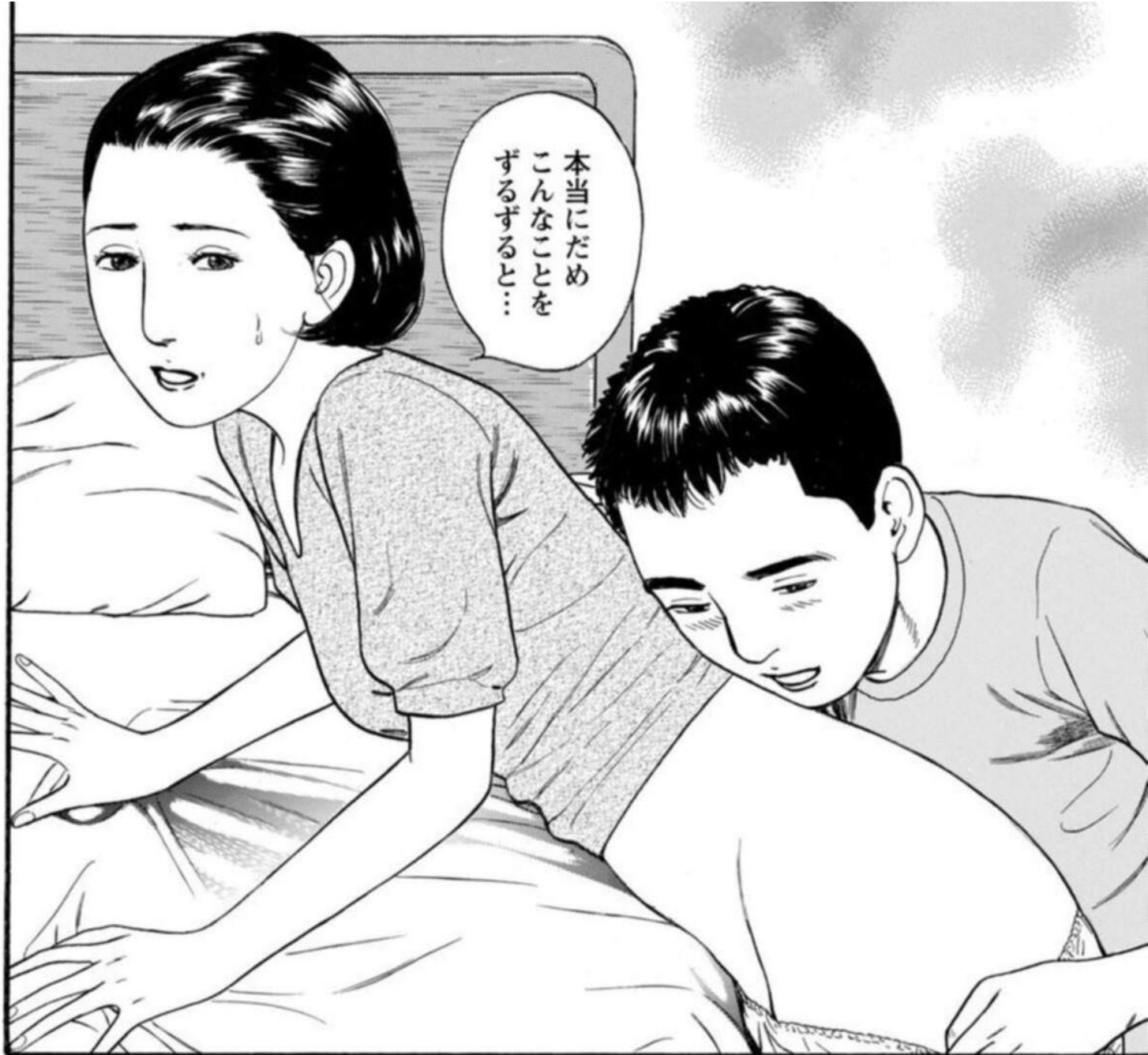


ああだめよ
茂男くん



おばさん
今日だけって
言ってたじゃない

だから
今日のうちに



本当にだめ
こんなことを
するすると...



ああ〜



でも...
今日だけと
言ったんだから

今日だけは...

欲に溺れる人妻

～若い欲に蜜をこぼして～

第2話









買い物ついでに
ていうには
ずいぶん遠くまで
歩いてきたんだね



買い物ついでに
歩いてきたのよ



ヒデちゃんの顔を
見たくなった……て
言ったら信じて
もらえるかな



うしろから
抱いて
くれない？



じゃあ他のことを
ヒデちゃんに
お願いしても
いいかな

なに……？



時子叔母さんに
顔を見せろって
お願いされたら
いつでも僕のほうから
出向いていくよ



包むように
ギュッと抱いて
くれたら
うれしいんだけど



だっ抱くって？



ギュッと

もつと



こ……こう？





だめ…と
言ったら



とつても
柔らかい

じかに
触れたら
きつと…もつと



許してもらえ
つもりで聞いて
いるんだけど…



はっ

あっ

きれいな
オツパイだね
触っているだけで…
本当…幸せな気分



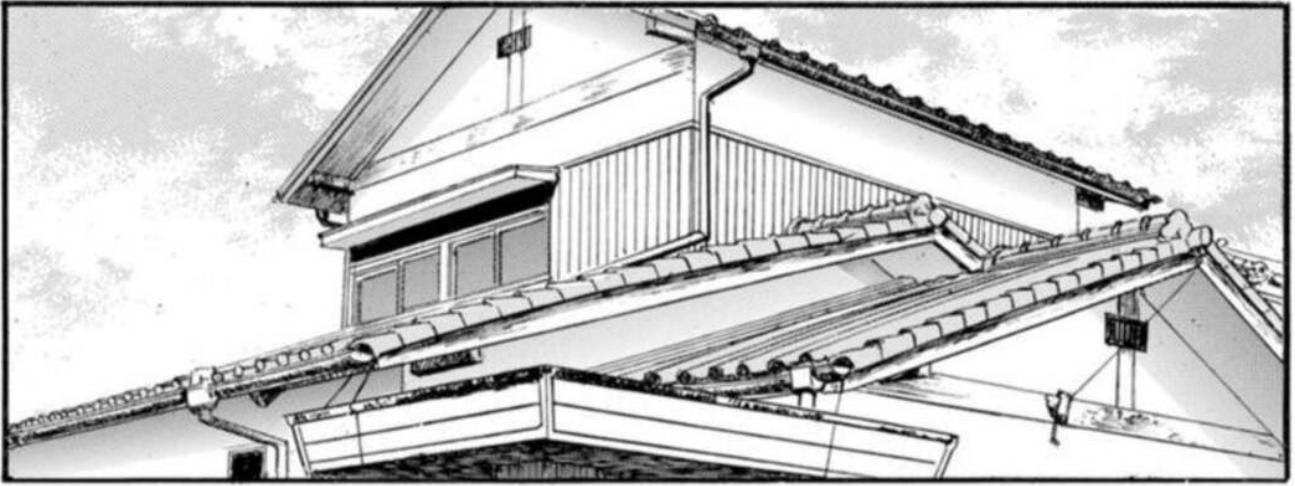






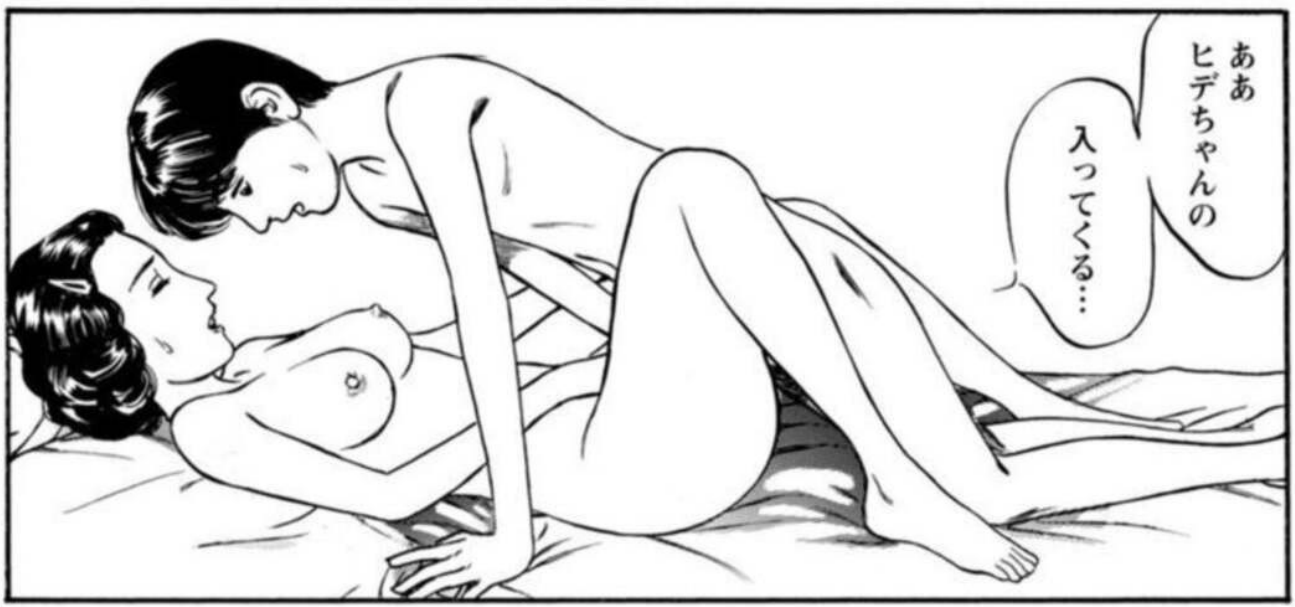








いい挿入て



ああ
ヒデちゃんの
入ってくる...



あっ



あっ

あっ

あぁ



と：時子
叔母さんっ

ああヒデちゃん
私もっもう…



ああ〜





ああ
あったかい…



でも
ヒデちゃんの
おかげで
晴ればれとした
ような気分よ…



私この頃ずっと
モヤモヤしていてね
理由のよくわからない
不安っていうのかな…





ヒデちゃんは
私の秘密の
オアシスだから

波風を
たてないように



誰にも
気づかれないように
大切にしないと

失って
しまいたくは
ないのよ



欲に溺れる人妻

～若い欲に蜜をこぼして～

第3話







それは
そうだよ

もう家の
お手伝いさんを
しているわけでは
ないんだから



医者に
月に一度は様子を
見せにこいと
言われていて…



康男
ぼっちゃんはまだ
病院通いを？

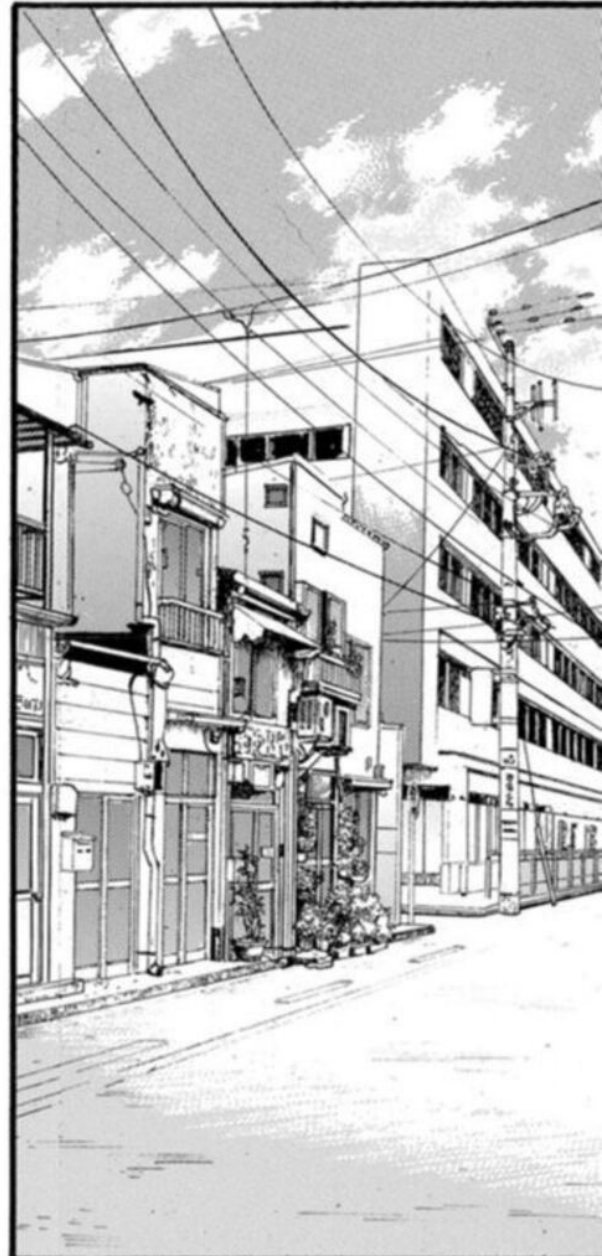
もうだいふ
体調はいいんだ
けどね



康男ぼっちゃんが
入院なさったら
いつでもお世話係を
お引き受けしますよ



私は知り合いの
年寄りがここに
入院していてその
世話係を頼まれて
いるんです





気まぐれに
お尻を触った
だけじゃ
ありませんか



僕があんな真似を
したばかりに
塚本さんのことを
家から追い出す
はめに……



母親も：
怒るなら僕の
ことを怒れば
いいものを

塚本さんを
淫乱よばわり
して……



少し淫乱な
気持ちがなかった
わけでも
ないんですよ

黙ってお尻を
触らせていたん
ですから

もし奥様に
見咎められずに
康男ぼっちゃんにも
その気があったら
……















気持ちいいですか？
康男ぼっちゃん
がしてほしいこと
なら私なんでも…



か…かず子も
裸になつて
おくれよ



ああ…

康男
ぼっちゃん

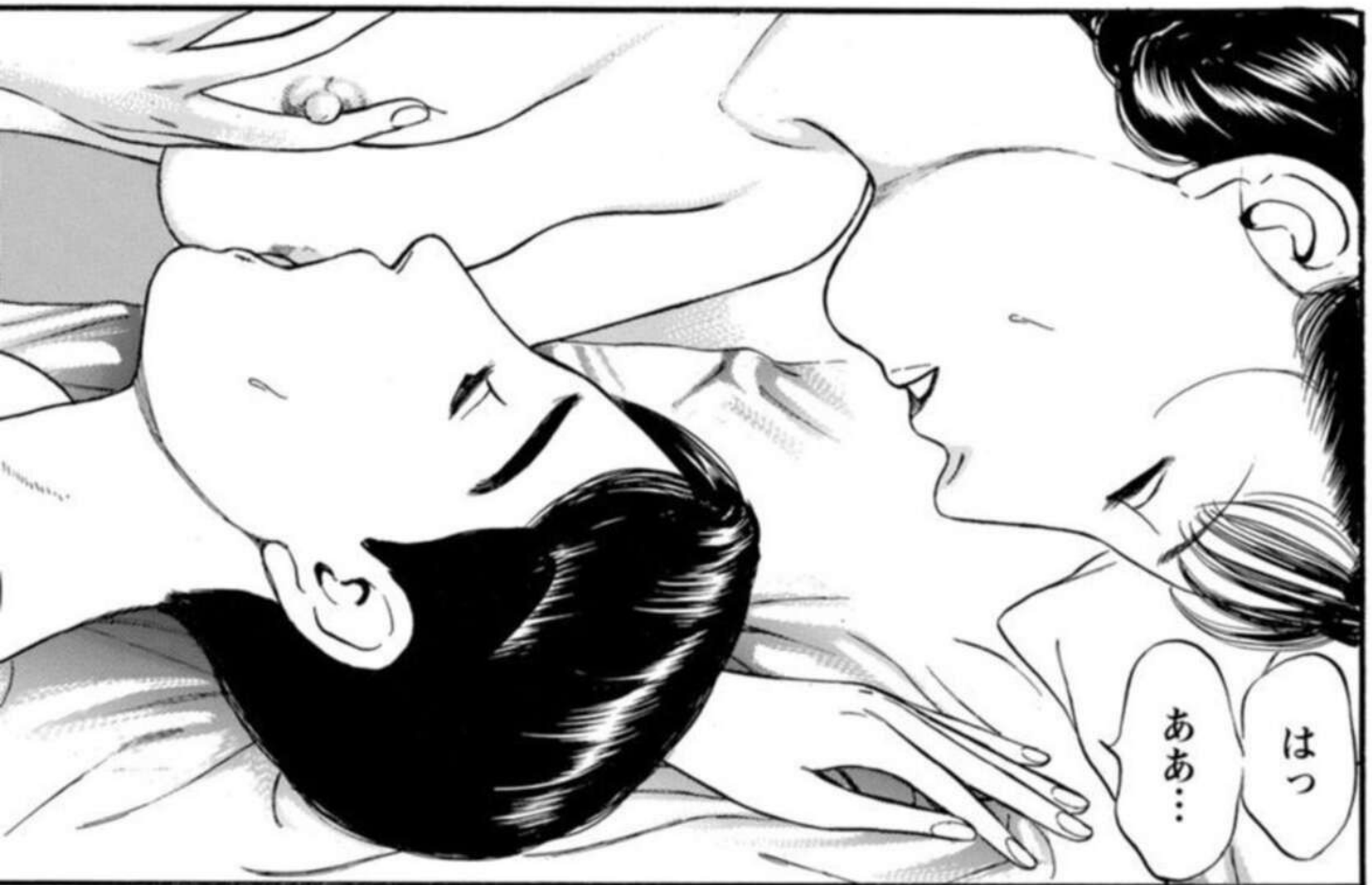
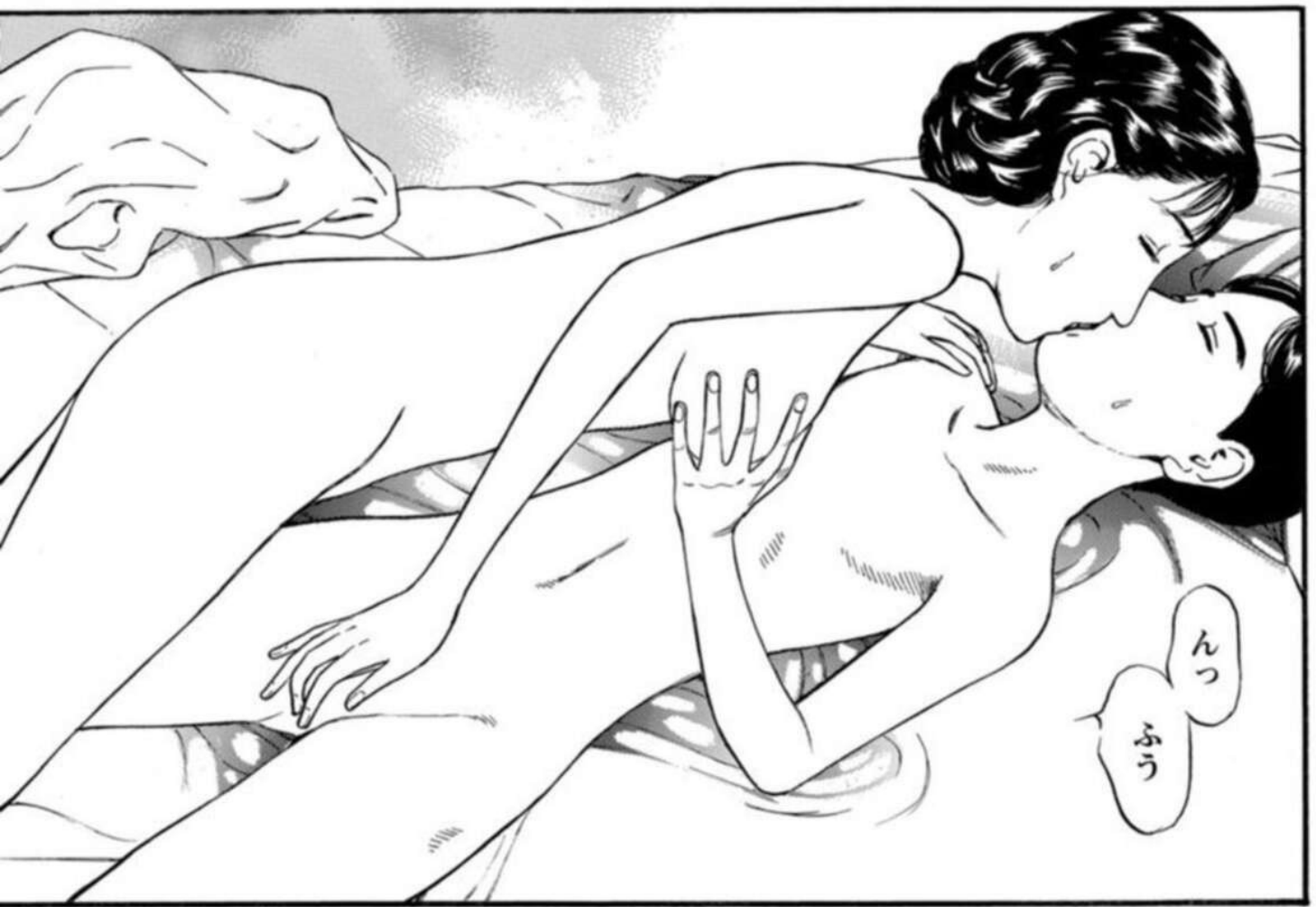


せつけんの匂い
なんかどうでも…

かず子の生身の
匂いを感じたいよ



汗まみれですよ
いいんですか…
お風呂の後でなくて





あぁ

康男ぼっちゃん



言っ下されば
かず子は何でも
言う通りに
しましたのに



言ってみようかと
何度も思ったよ
かず子のここを
見せてくれないかって











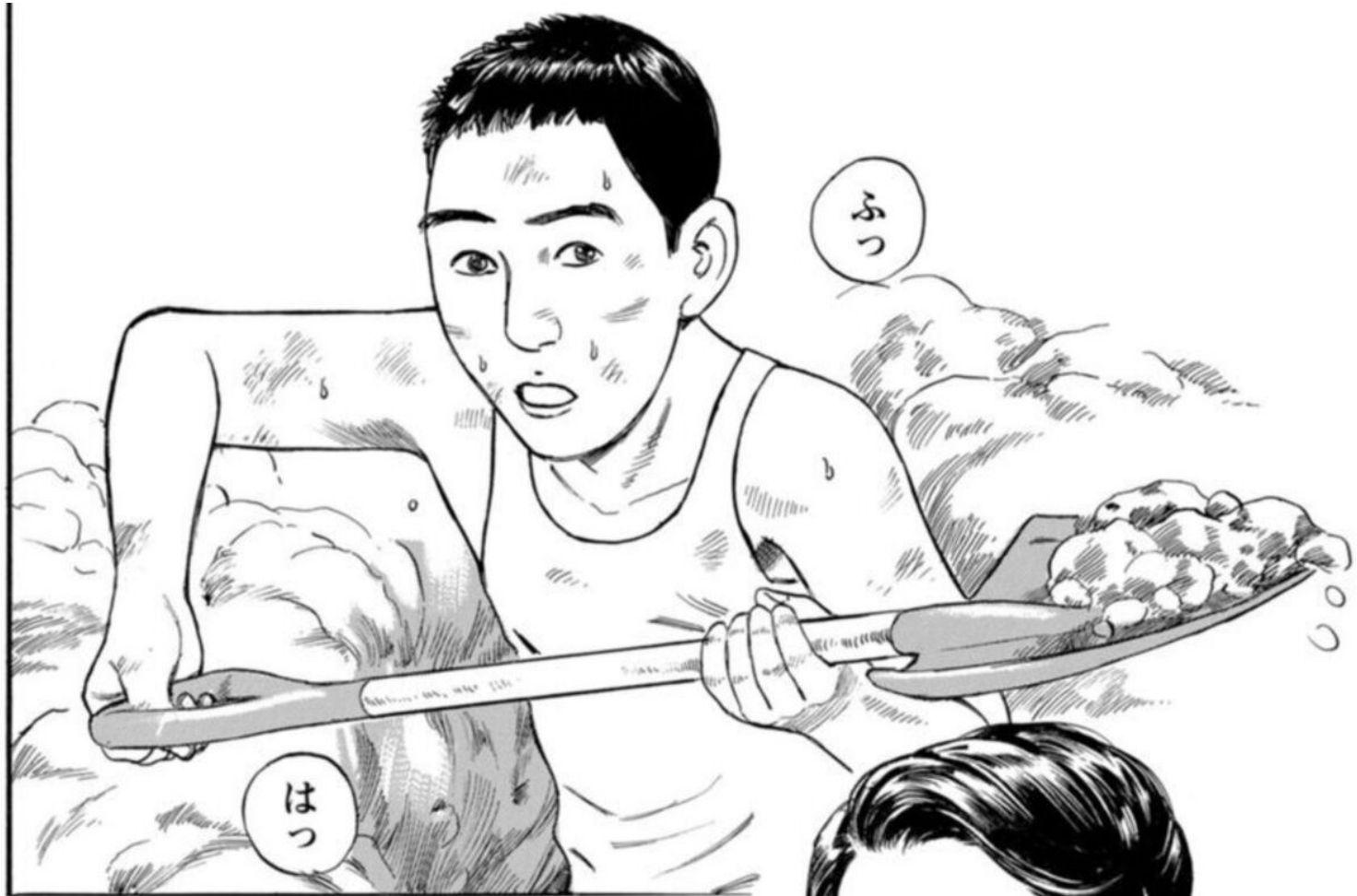


欲に溺れる人妻

～若い欲に蜜をこぼして～

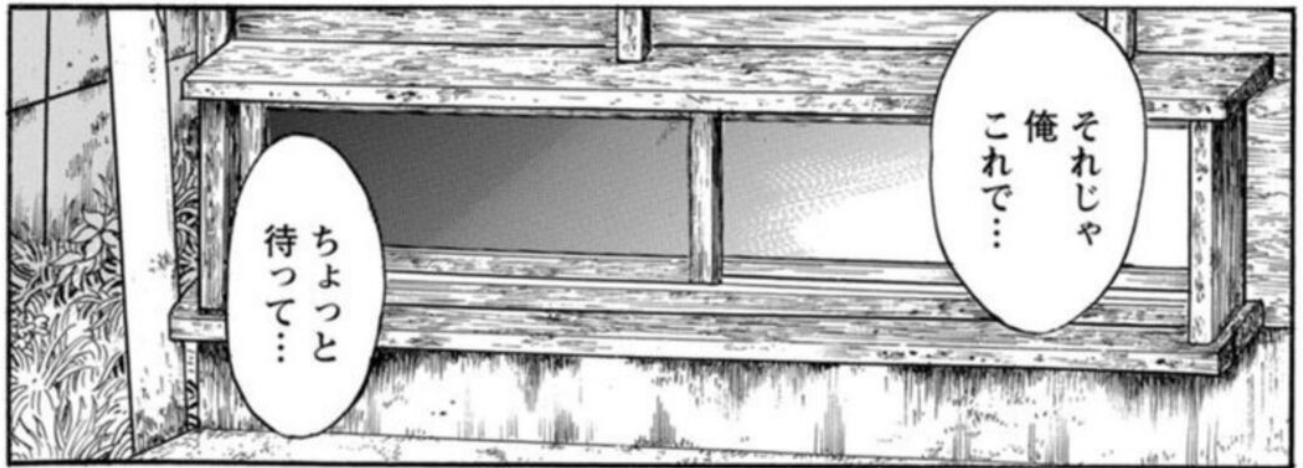
第4話



















ごめんなさい




どうかしてました
反省してます
もうしません




おつ奥さんの
お尻とか見たくて
おつ俺……





みつともない
だなんて：
奥さんの真っ白で
きれいな尻が
見えただけで
おっ俺…もう


見えたのは
お尻だけ…？



真っ白なお尻から
キラキラ光る
粟のような…

そっ
それだけで
もう…ほんとに

あっちのほうを
見たいと思った
けど…そそれは



あっちのほうって
…この辺り？



正直者は
得をしなくちや
いけないわよね



近頃は
うちの主人
触れもしない
んだけど



そんなに
見たがってたなんて




もっと近くで
見たらどう...?



はっ

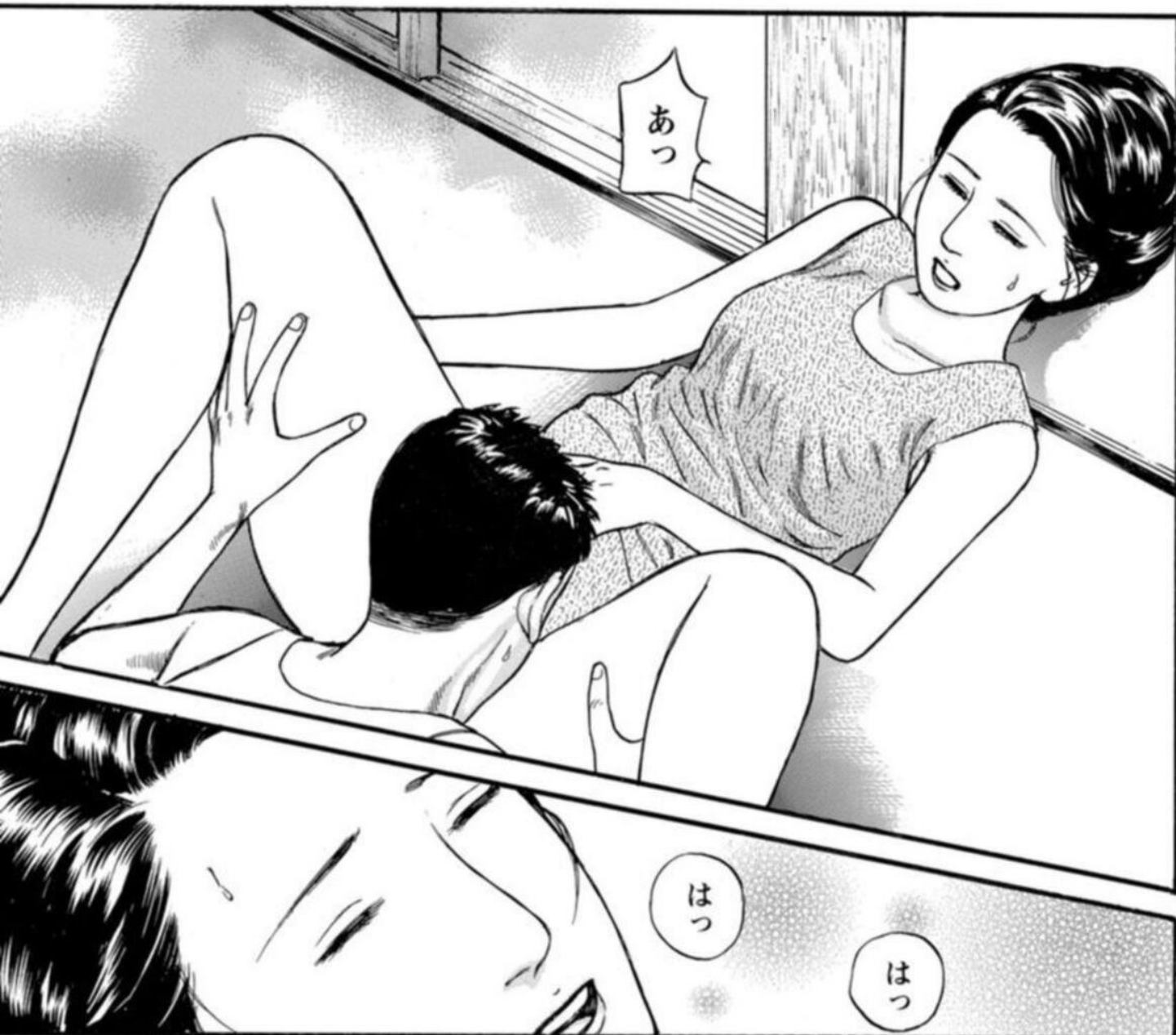
はっ



初めて見るには
あんまりきれいな
ものじゃないかも
しれないけど…

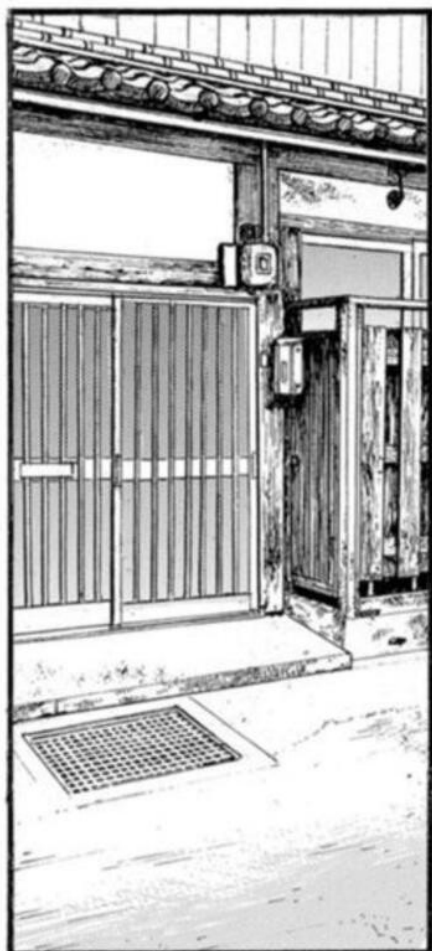
はっ

はっ

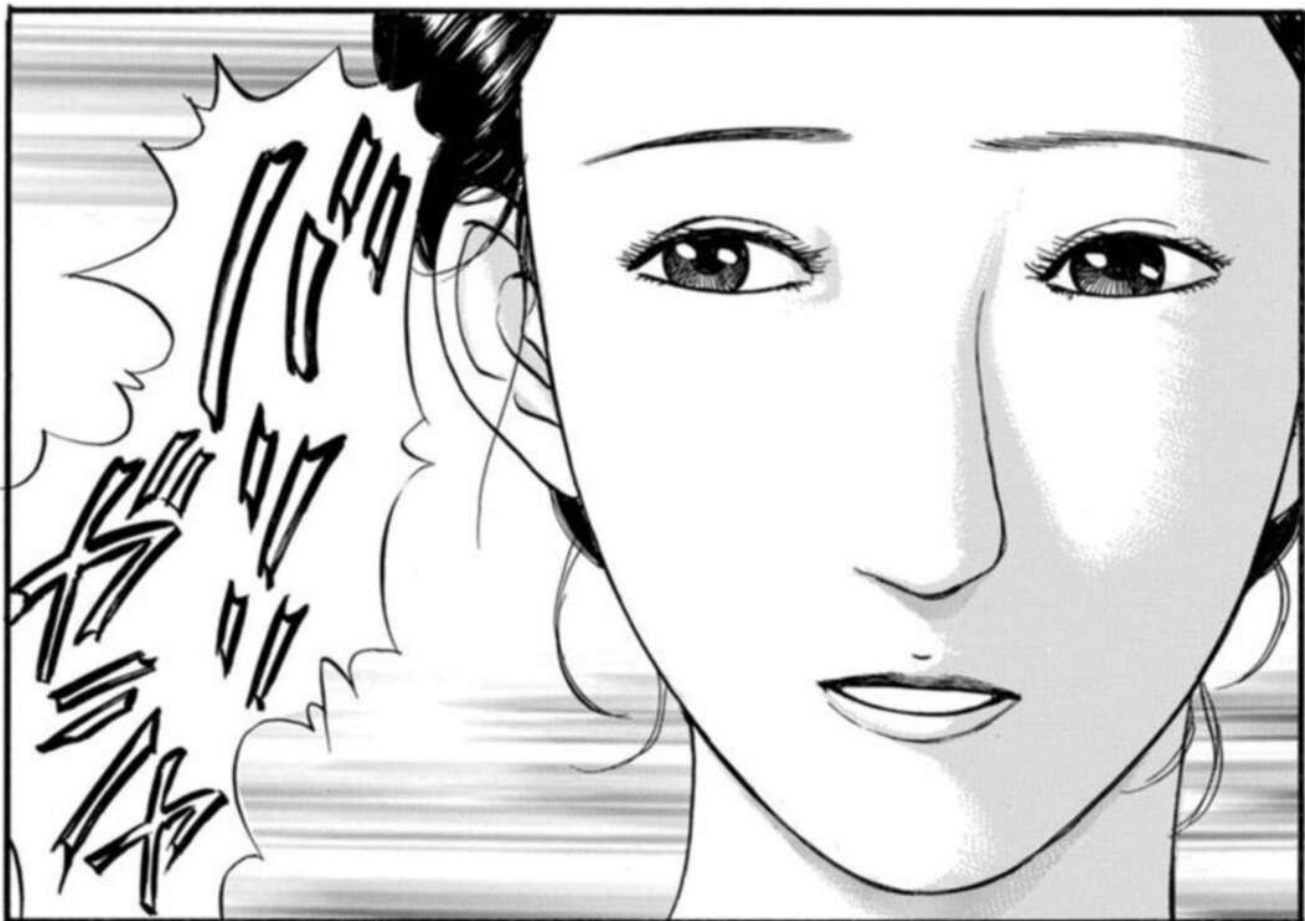














うん



あだだ…
わっ
忘れてた…



これっきりって
言ったのに…

アアア

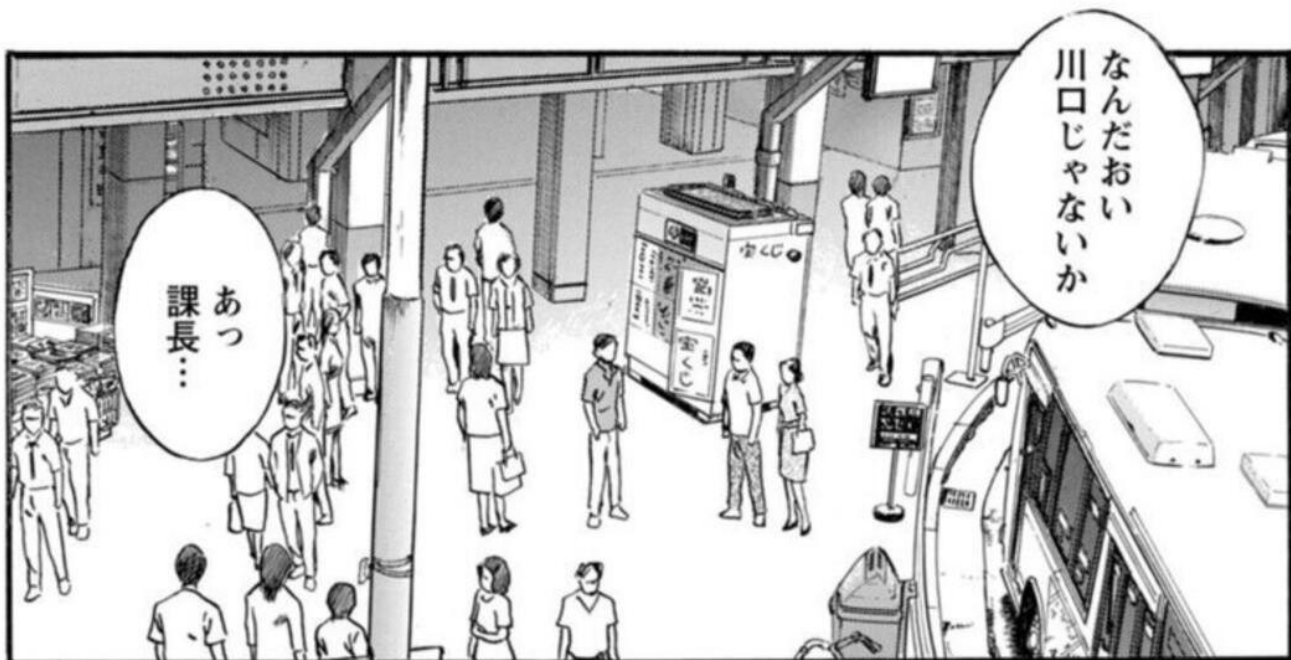
アアア

欲に溺れる人妻

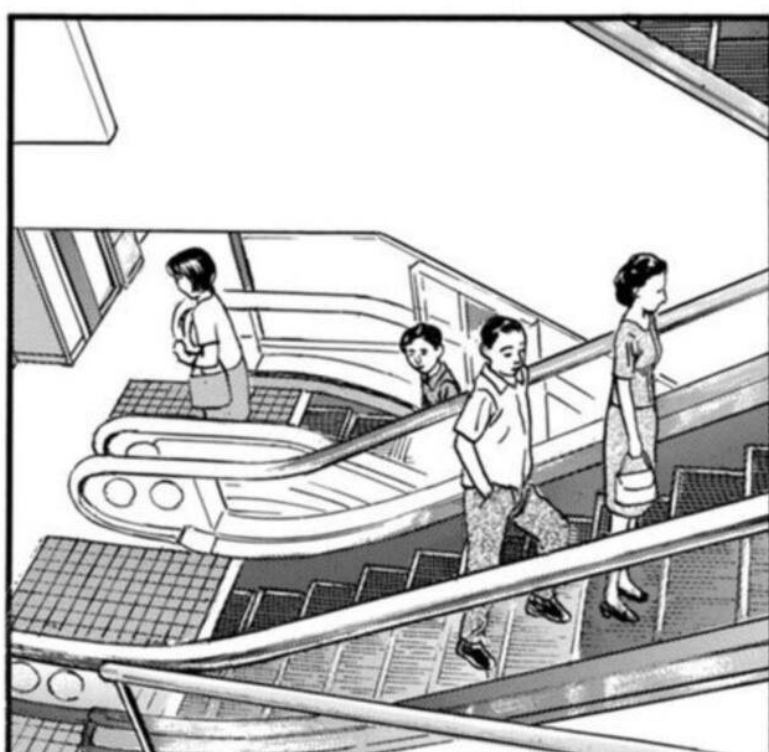
～若い欲に蜜をこぼして～

第5話







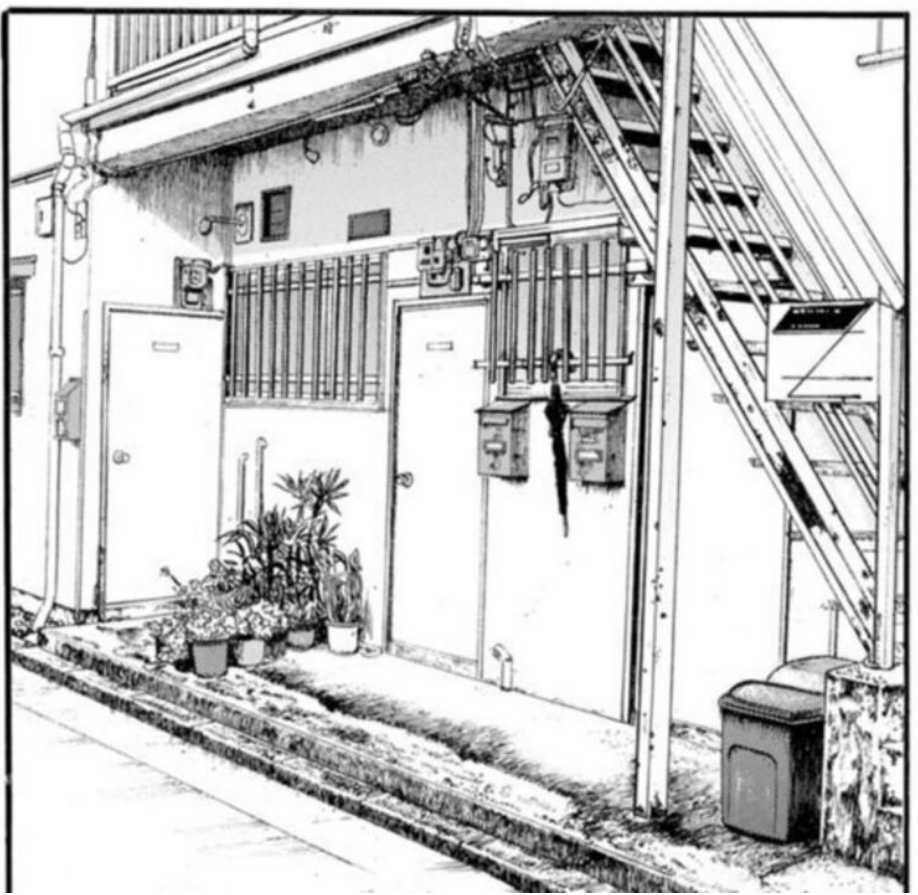
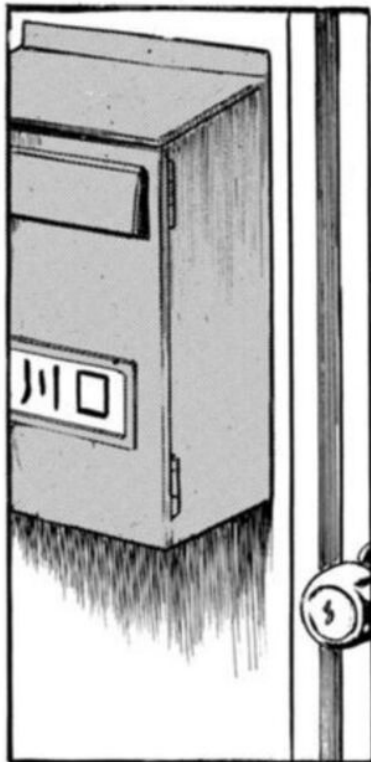
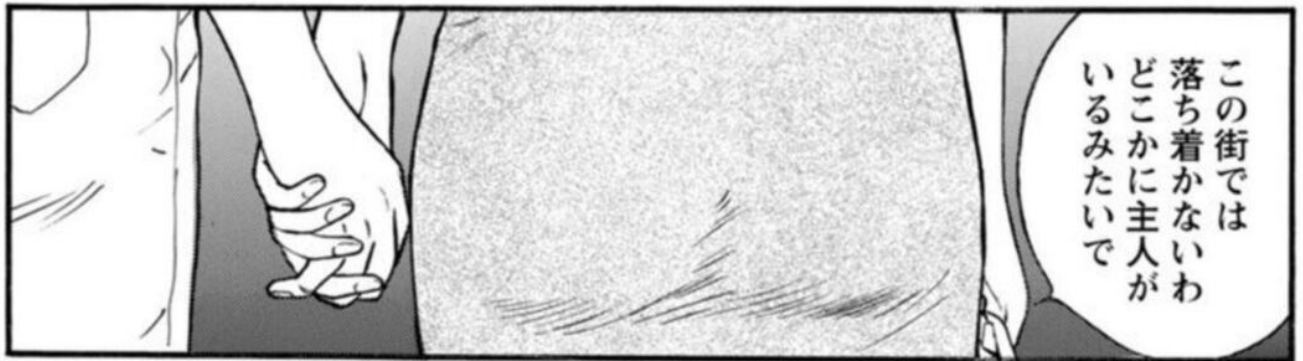


















だっだめ
そんなところ
突然触られ
たら……



溶けちゃいそう
ですよ…僕の指先
ほら奥さんの
中に引き込まれて
いくように



もうだめ

あっ

ああ







しっ舌で
されるの
すっ好き…

そっそこ
もっとお願い



あぁ

はっ













誰にも
知られずに

ひっそりと...

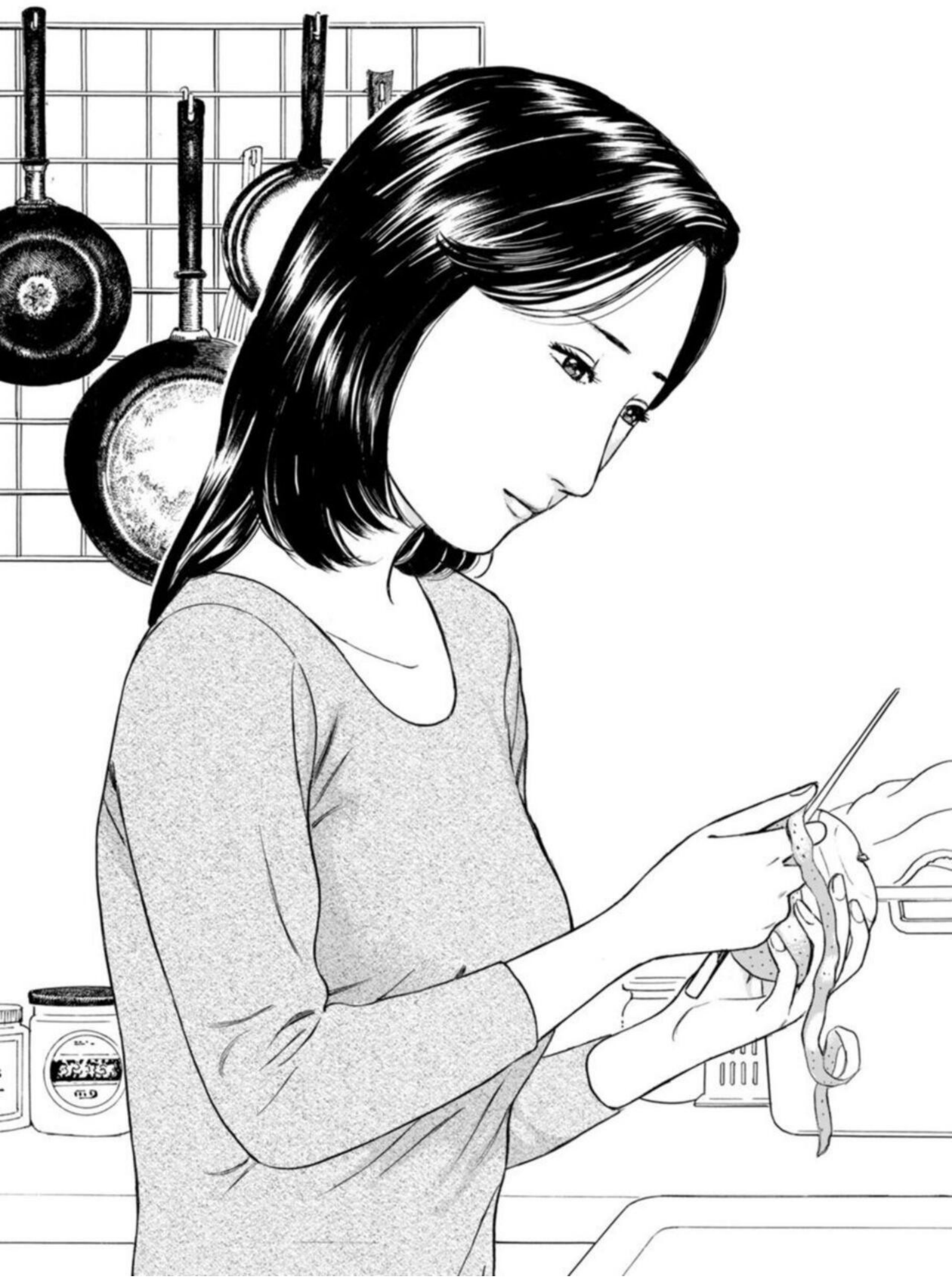


二人の時間を
つくって...
いかなくは...

欲に溺れる人妻

～若い欲に蜜をこぼして～

第6話



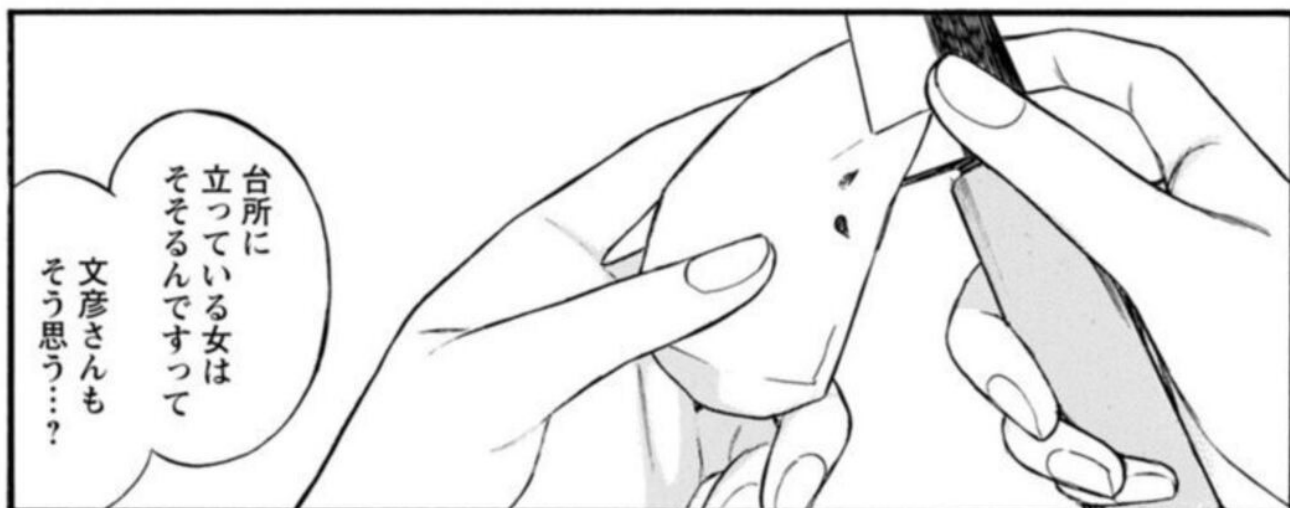






















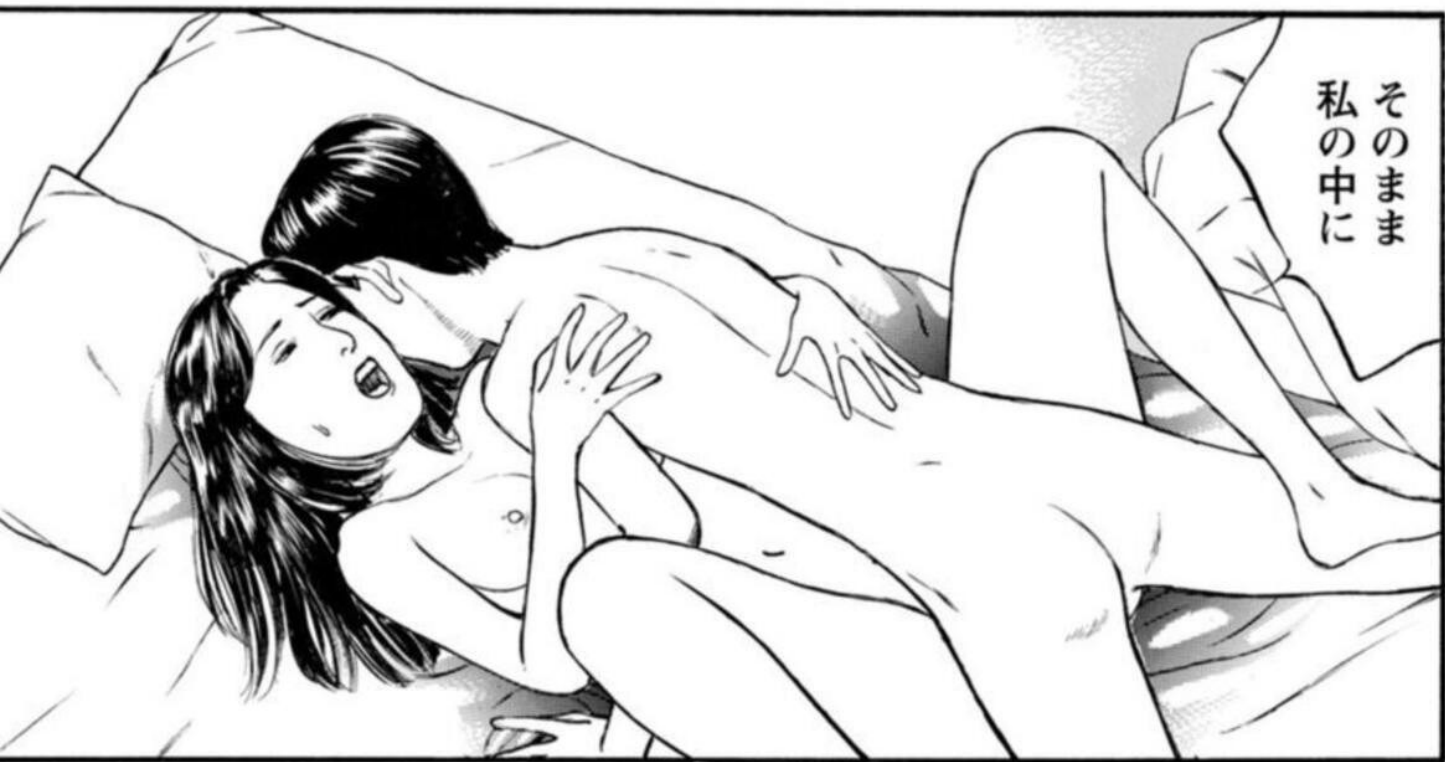






いいのよ

きゅー!



そのまま
私の中に

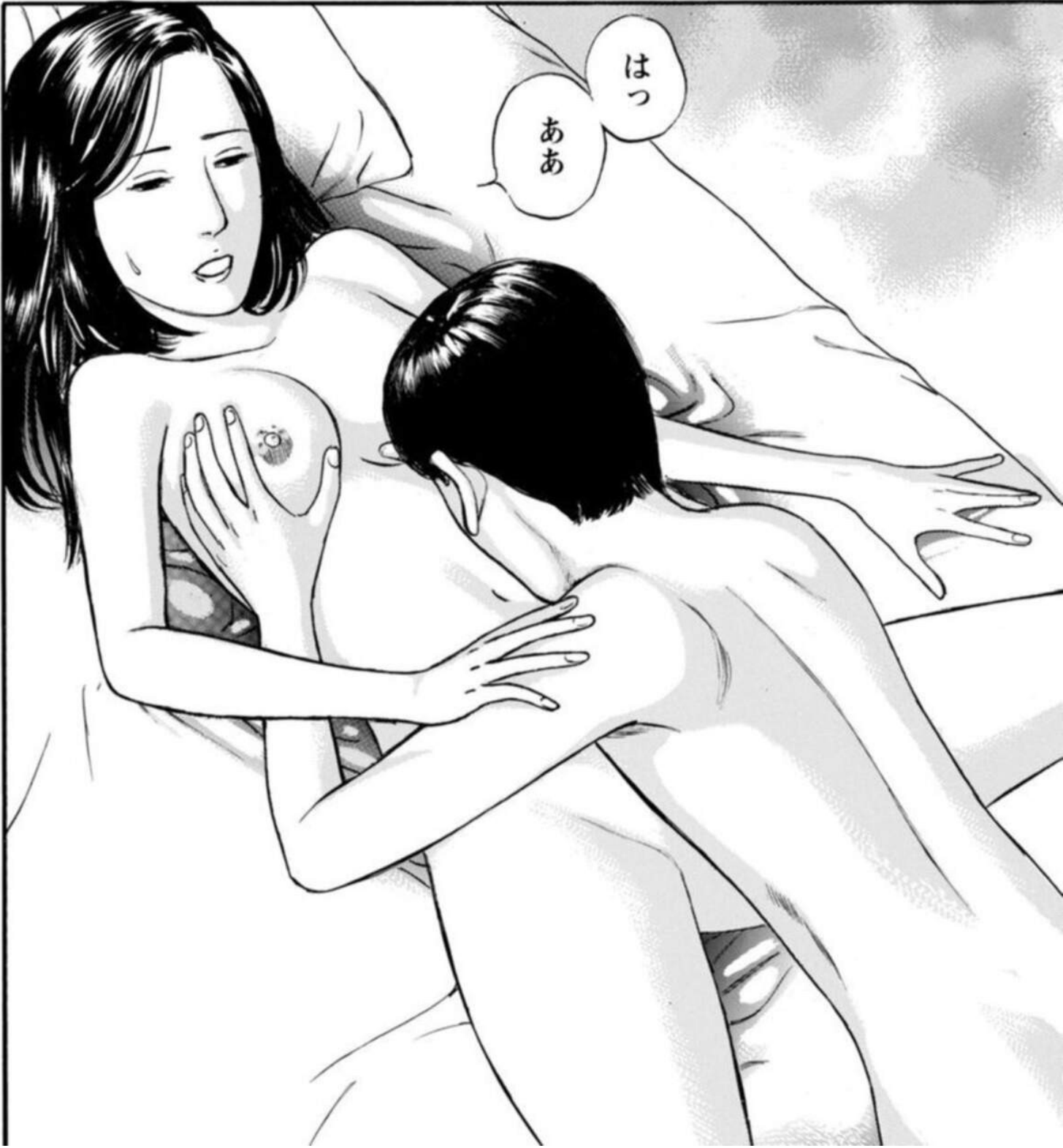


あつ

あぁ~~~~









あっ



だっだめ
そんなこと



よく見ていい？
照子さんの
こっ



照子

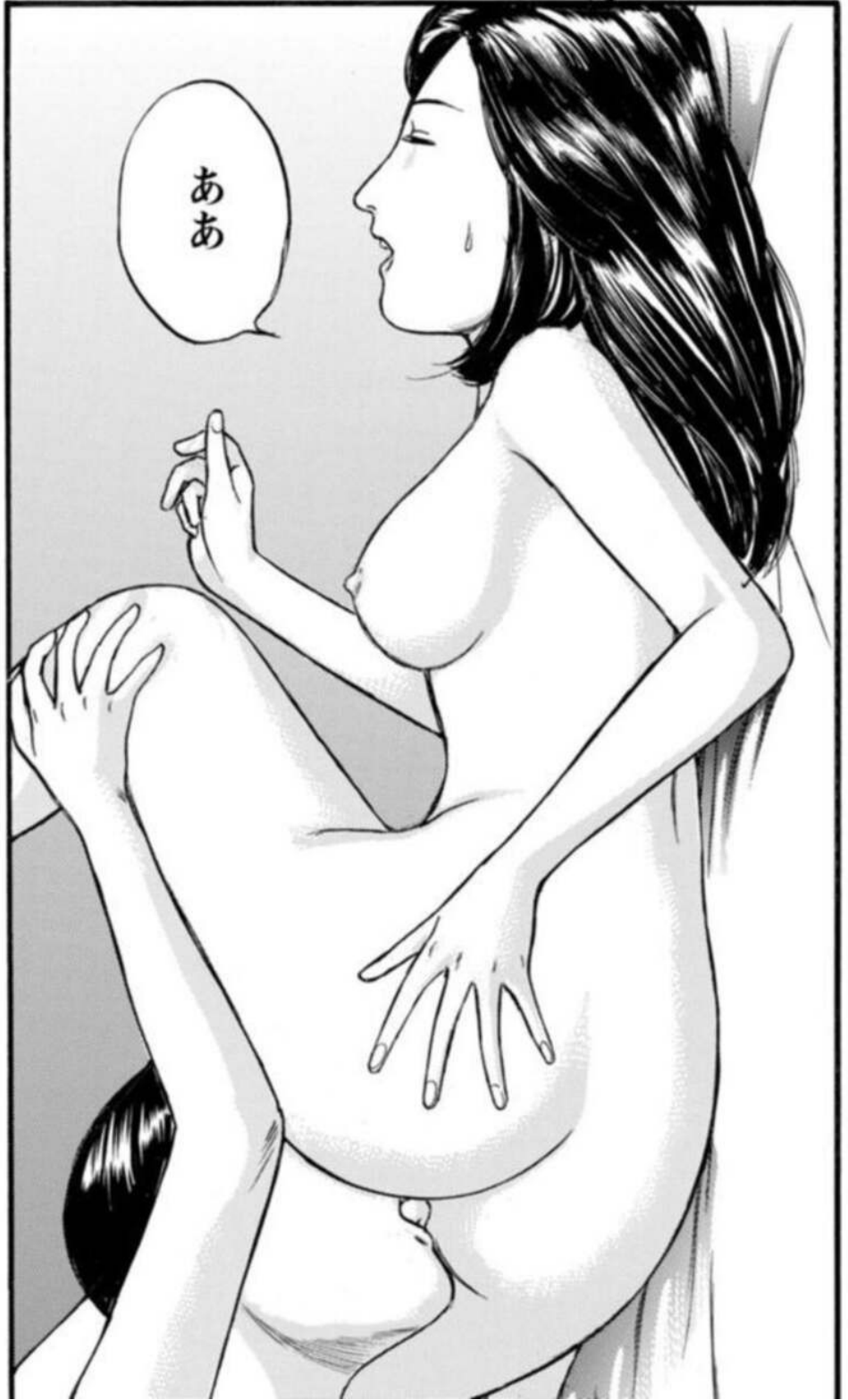
いいだろ
見せてよ



ええ
あなた

どうぞ
見て





**欲に溺れる人妻～
若い欲に蜜をこぼして～
【合冊版】**

①

鶴永いくお

© 鶴永いくお／秋水社ORIGINAL